

した。

37. Nomeidae エボシダイ科 (5回出現、5尾)

Nomeidae gen. sp. エボシダイ科種不明 (5回出現、5尾)

夏期から冬期にかけて出現し、丸特ネットの垂直びきに多く出現した。出現個体の全長範囲は2.6-5.8mm、出現海域は湾口部、近海域、東支那海域である。

38. Mullidae ヒメジ科 (81回出現、423尾)

Mullidae gen. spp. ヒメジ科種不明 (81回出現、423尾)

ヒメジ科は3種出現した。3種をまとめてヒメジ科とし、その出現状況等を示した。

四季を通して出現した。1網当りの月別出現個体数は図-35に示すとうりである。モードは8月で、単峰型を示した。つきに出現海域は全海域で特に湾内に多く出現した。出現個体の月別全長組成は図-36に示すとうりである。全長4mm以下の仔魚は7-10月まで出現し、その間がヒメジ科の主産卵だと思われる。

時刻別出現個体数は図-37に示すとうりである。1網当りの出現個体数は10-12時と16-18時の双峰型となり、ヒメジ科の稚仔魚はほとんど昼間に出現した。ついで出現点の表面水温の階層別出現割合は図-38に示したとうりである。モードは27-28°Cで、26-29°Cの階層に80%以上が出現した。出現個体数加重平均水温は27.4°C、出現点数加重平均水温は26.5°Cになった。

39. Apogonidae テンジクダイ科

(22回出現、56尾)

Apogonidae gen. spp.

テンジクダイ科種不明

(22回出現、56尾)

四季を通して出現し、出現盛期は夏期(7月)、出現海域は全海域で主分布域は湾内である。沖縄近海のテンジクダイ科の種類数は約40種で、そのため今回も多種多様の稚仔

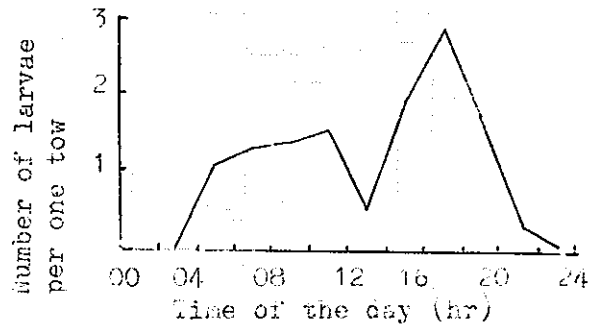


Figure-37 Relationship between time of the day and occurrence of Mullidae per one tow

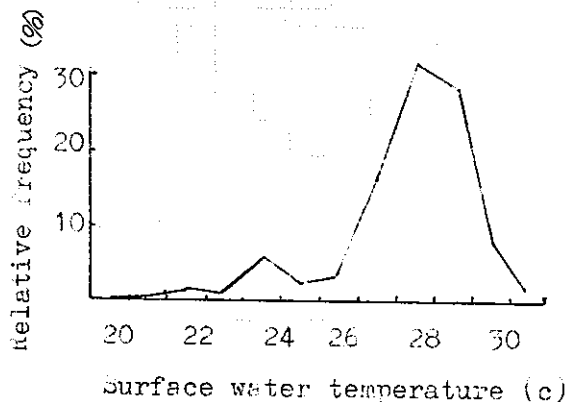


Figure-38 Relationship between surface water temperature and occurrence of larvae of Mullidae